

**授業概要**

特に前近代におけるキリスト教過去の社会や出来事を始めとした多様な歴史的知識と思想を知り、それらが現代の社会に与えた影響について学ぶことを通じ、世界と自身の関わりを考え、より深く理解する契機とする。地域としての「西洋」がどのように発展し、一つの地域としてまとめ、世界各地で大きな力を持つようになったのかについて、重要ないくつかの事象を詳しく取り上げることで知見を深める。

特に前近代におけるキリスト教について詳しく扱い、宗教が政治・経済・思想の基盤を形成する意味を考察する。これにより、近代社会における世俗化の意味に対する多角的検証が可能となり、西洋社会の構造・制度への理解を深められるよう講義する。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス：講義概要
第 2 回	時間を測ることの意味
第 3 回	古代①：ギリシアと民主政
第 4 回	古代②：共和政からローマ帝国へ
第 5 回	古代③：キリスト教の誕生と浸透
第 6 回	中世①：神聖ローマ帝国の成立
第 7 回	中世②：ローマ教会の発展と教皇権
第 8 回	中世③：都市の発展と改革運動
第 9 回	近世：近世ヨーロッパ社会の成立
第 10 回	近代①：「世界システム」の成立
第 11 回	近代②：革命の時代
第 12 回	近代③：国民国家の形成
第 13 回	現代①：帝国主義と思想的背景
第 14 回	現代②：二つの世界大戦がもたらした変化
第 15 回	現代③：冷戦後の世界
第 16 回	筆記試験

**到達目標**

- ・国際的な相互理解の重要性を理解する基礎として、「西洋」という地域が持つ歴史的・文化的特徴を理解し、具体的に記述できる。
- ・歴史的・現代的アプローチの違いを認識して多様な解釈の存在を理解できる。
- ・思想・文化に対する知識を養い、豊かな人間性を持って国際文化の理解に貢献できる。

**履修上の注意**

授業内でも解説は行うが、高校の世界史レベルの知識があることを前提として進める。そのため、事前に高校の世界史や地理についてはよく復習しておくこと。また、授業終了時に随時内容に関する小テストを行うので、きちんと話を聞いてノートを取ることを。

**予習・復習**

シラバスに沿って進めるので、タイトルにある単語については授業開始前に自分で調べておくこと。

**評価方法**

授業内容にもとづく学期末の試験(60%)、授業終了時に行う内容に関する小テスト(20%)とコメント(20%)の合計で決定する。

**テキスト**

特に指定しない。参考文献は授業内で紹介する。